

福祉(第二次)避難所 《行政で検討中》

災害が落ちた着いた時

行政の指示で「聞こえない人」は福祉避難所へ集まる

町・道路の様子、自分の家がどうなったかわからない時は、行政の人に調べてもらう

集まる時は、行政の人、またはボランティアの人と一緒にいく

自分だけで勝手に行かない(第一次避難場所の人に福祉(第二次)避難所へ移動することを必ず伝える)

福祉(第二次)避難所に着いたら

要援護者(聴覚障害者)の安全を確認する

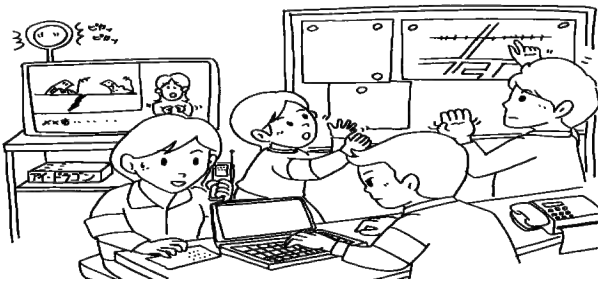
情報機器で状況をつかむ

通訳・ボランティアを派遣してもらう

ここでも仲間で助け合う

自分の家、家族、友達は怎么样了か心配ですが、順に調べるので勝手な行動をしない

福祉避難所内の情報機器など



手話通訳者 災害派遣ボランティア



携帯電話TVコール



WEBカメラなど



地震が落ち着いたら

1・自分の家がこわれたり、無くなった場合は、福祉(第二次)避難所にいる

2・家に帰っても大丈夫か?調べてもらう

大丈夫な家は帰る。でも、情報・通訳・支援は福祉(第二次)避難所で受ける

3・親せき、家族の家へ行く人は、必ず連絡先を知らせる

4・行政の窓口を設置通訳がいるので何でも相談する

5・心のケアのため、ピアカウンセラーが設置されたら、心配事を話す

仮設住宅

災害で家を無くした人、親せきや家族の家に行けない人、すぐに家を建てられない人

市が仮設住宅を作り、入居できるようにするので、行政の窓口で相談する